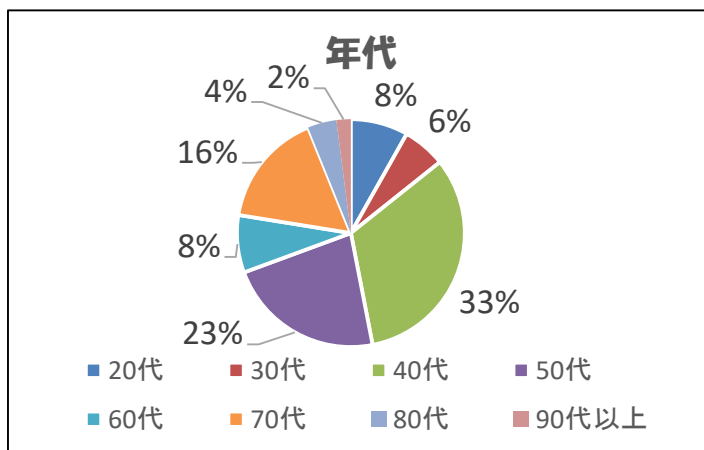


参加者 63 名  
 回答者 49 名  
 回答率 78%

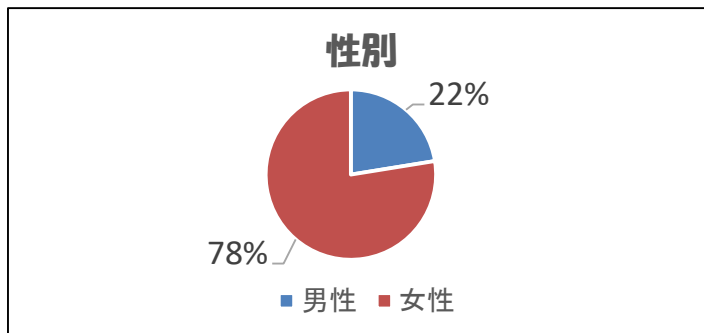
1. ご回答者について伺います。年代をお教え下さい。

年代	人数	%
20代	4	8%
30代	3	6%
40代	16	33%
50代	11	22%
60代	4	8%
70代	8	16%
80代	2	4%
90代以上	1	2%
合計	49	94%



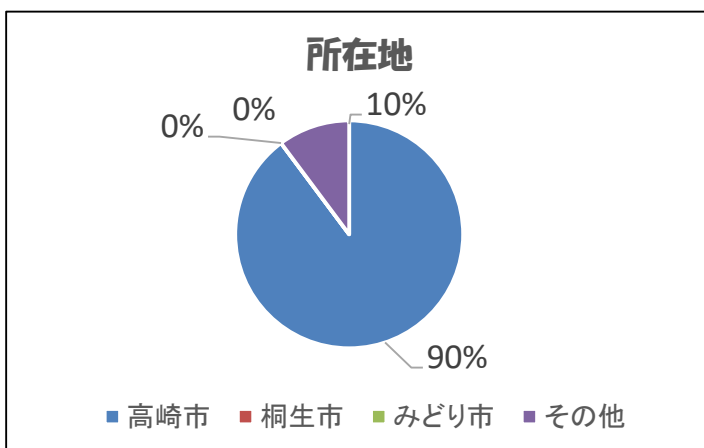
2. 性別

性別	人数
男性	11
女性	38
合計	49



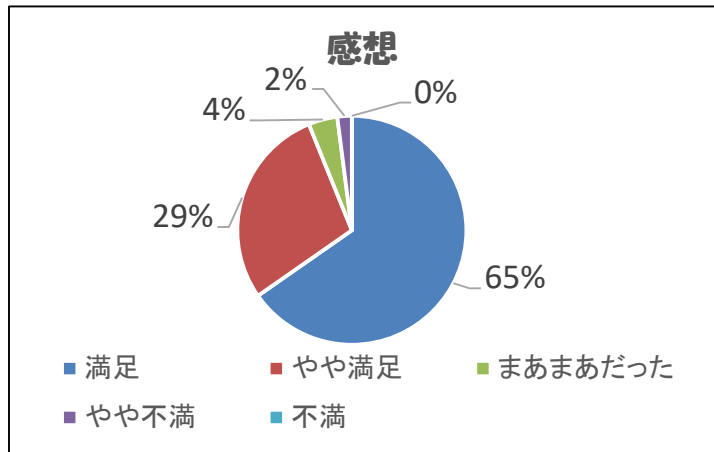
3. 所在地

所在地	人数
高崎市	44
桐生市	0
みどり市	0
その他	5
合計	49



4. 今回のテーマや講義はいかがでしたか

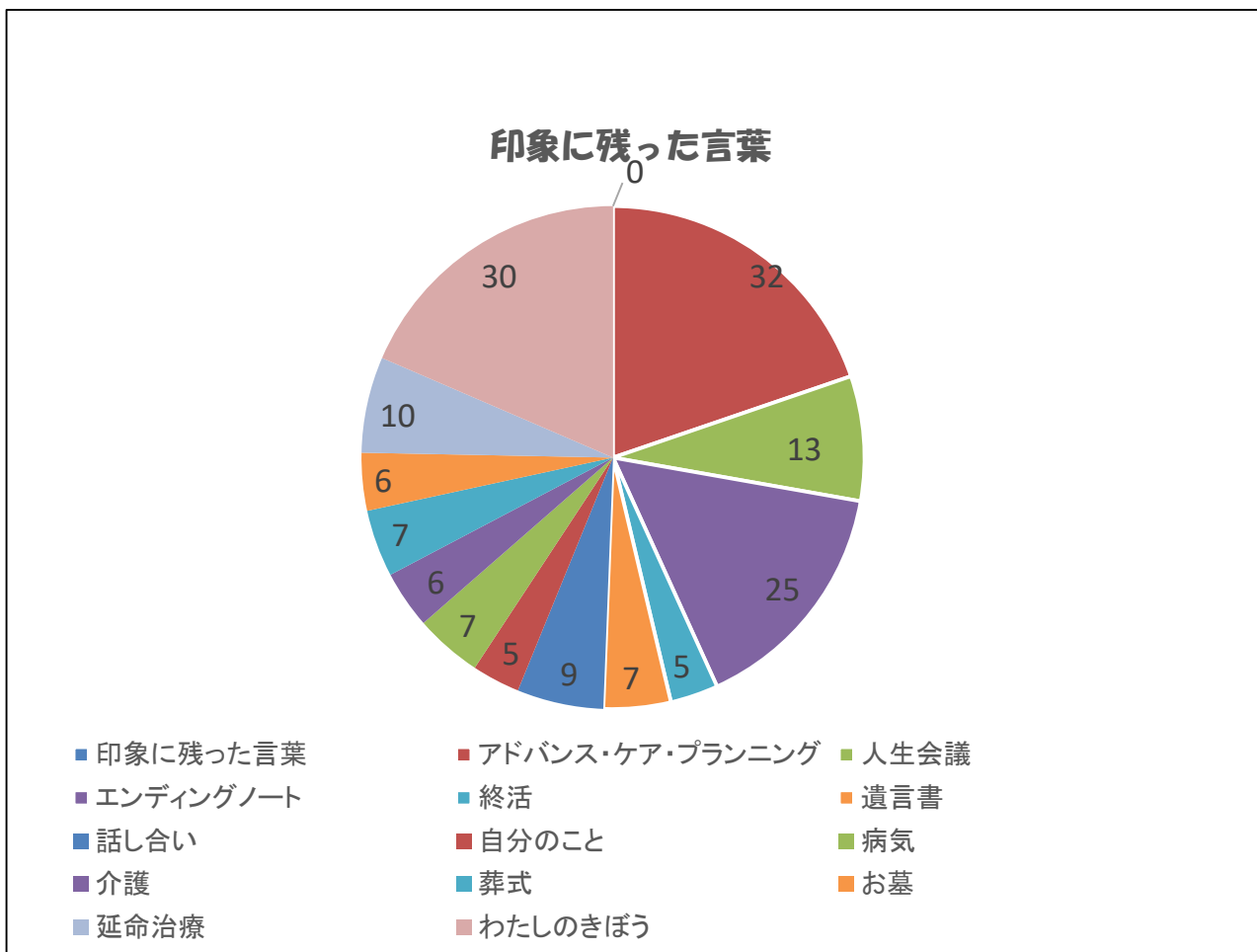
感想	人数
満足	32
やや満足	14
まあまあだった	2
やや不満	1
不満	0
合計	49



5. 印象に残った言葉を教えてください。(複数回答有)

印象に残った言葉	人数
アドバンス・ケア・プランニング	32
人生会議	13
エンディングノート	25
終活	5
遺言書	7
話し合い	9

自分のこと	5
病気	7
介護	6
葬式	7
お墓	6
延命治療	10
わたしのきぼう	30



## 参加者の意見・感想

- 貴重なお話ありがとうございました。各自治体のエンディングノートを見た事がありますが、桐生市のノートはとても記入しやすいと感じました。
- エンディングノートを担当の方に勧めたい…と思っていたが、いざ自分で考えてみると迷うことばかりだった。気持ちも変かわるし、時々の見直しが大切だと思った。
- ①例えばですが、高崎市は2015というアセスメント用紙があります。こちらにエンディングノートの内容の項目を取り入れたら毎回、思いの更新が出来て良い様に感じました。  
②定期的に司法書士や弁護士と相談できる日を作り、相談会を社協で行って頂けると迷える家族の判断材料になるかもしれないと思います。
- 在宅医療介護連携センターきりゅうが、桐生市とみどり市と協力してエンディングノートの活用に取り組んでいることを評価いたします。この冊子はどちらかというとACP＝医療職向け(生命維持に関して医療職が活用できる)の内容に特化していると思います。エンディングノートは、本人の仕舞い方(終末、臨終、死亡後)を本人の気持ちに寄り添って書き記し、生きる希望や亡くなったときの心配を軽減することに重きを置きます。いずれにしても、本人が書く気持ちにならなければ作成できないので、専門職が本人に寄り添う気持ちと信頼がベースになると考えました。  
最後に、この学習機会をいただいたあんしんセンター希望館に感謝申し上げますとともに、講師として立派に成長した小川さんに拍手を送りたいと存じます。会食の機会がありましたら、嫌いなものを注文したりして…笑
- ちょうどエンディングノートを購入し、本日ポストに届いているであろうタイミングに講義を拝聴でき、有難いです。おかげですぐ記入に取り掛かれそうです。人生の折り返し地点に差し掛かり、また、仕事で利用者さんの最期を目にするたびに自分の最期をどう生きようか考える今日この頃…残された家族が選択に困らない、後の事務処理に困らないためにも色々なことをノートに記しておこうと思いました。
- エンディングノートは、色々ありますが、薄い方が書きやすいと感じました。
- 本日はありがとうございました。ノートの書き方について、小川先生が実際書き留めた内容に沿ってご説明いただいたのでとても分かりやすかったです。ACPは難しく考えず、身近なもので、何気ない日常の会話から思いを伝え共有していく事が大切だと分かりました。
- 私の希望を記入しながらの講義がとても良かったです。  
改めて自分と向き合えた感じです。このようなツールを使いながらACPに取り組むことでいざというときに家族が選択を迫られるときのストレスを和らげるものだど理解できました。  
ご講義ありがとうございました。
- 資産2億7千万は微妙にリアリティがあるので、50億くらいあると嘘っぽくて笑えます。
- 大変参考になりました。ありがとうございました。
- 出前講座と言う事で地域の方々にも理解しやすい言葉を選んで説明されていたので、改めて整理がついた。また仕事の上で対利用者や家族に対して、何ぞの時の相談をする事が多いが自分の人生について考えていなかったことに気づかされた。
- 仕事上、ACPに関して関わる事や他者に紹介する事はありましたが、自分の事に関しては、深く考えていなかったのだから考えるいいきっかけになりました。
- 自分で意思決定できるうちに自分の価値観や考え方を家族や友人に伝えておくことが結果、家族のためになるという事に感銘を受けました。
- エンディングノートに本人の意思を記入し、残していくことによって、残される家族たちにとってもいい方法であると思う。将来自分が老いて、意思を伝えられなくなってしまった時などのためにも早い時点から考えていくことが必要であると思う。
- 自分は、学校でACPIについては知っていたが、出席している地域の方々には、あまり知られていないということがわかりました。そのため、このような機会があると地域の方々にとっても知る機会となり、今後の事をポジティブに考えるいいきっかけになると感じました。
- APCについて私は、大学でも学習したことがあったので基礎的な知識については理解していたが、今回の講義を通して家族で一緒に考えたり1年に1回見直したりするなど知識だけでなく地域において考える機会を作ることが重要であると学ぶことが出来ました。
- 延命治療を途中で中止するのは、家族からすれば中々決心がつかないでしょうから、回復することが不可能であれば最初から延命治療はしないにチェックしました。
- 「これからいろいろな事を考えないと」と感じました。

■音声が届き切れず音量が小さかったことが残念。(私も含め周囲の方からのご意見)  
ネガティブになりがちな話題でも「もしもの時のために」自分自身と家族のためにも必要な事を改めて実感しました。

良き学びの時間を誠にありがとうございました。

※可能であれば…「緩和ケアの実際」や「ターミナル」等の講座をぜひお願いします。(今回の講座の学びを得て皆さん興味深いようです。)

■小川先生の話がわかりやすく自分の意思がはっきりしているうちにこういったノートは記入することが必要だと思った。

■エンディングノートの言葉も初めてだったのでとても良かったです。勉強になりました。ありがとうございました。これからは、いろいろと考えていきたいと思います。

■終活につけなんでもできる事は早くしておくことは大事だと思います。子どもたちも助かると思います。人生会議は、無理な事だと思いますのでエンディングノートは絶対必要だと思います。延命治療の事も詳しくわかりました。ありがとうございました。

■エンディングノートは、まだ早いと思って書かないでいるけど意識ある時にある程度書いておくことが必要だと思った。

残った人に迷惑をかけないように準備しておくこと

少しずつ前向きに考えたい。

1年に1回は、家族で話し合う機会を持ちたい。

■例えば、「私は死をこう考える」などといった、その人、個人の考え方などを紹介するようなお話を聞いてみたい。

■エンディングノートは聞いたことがあったが内容は知らなかったのでいい機会になりました。



次回

第28回 塚沢・浜尻社会連携会議 ZOOM

12月9日(金) 講 義13:45~14:45

サテライト会場:塚沢公民館2階

テーマ「DARC(ダルク)」